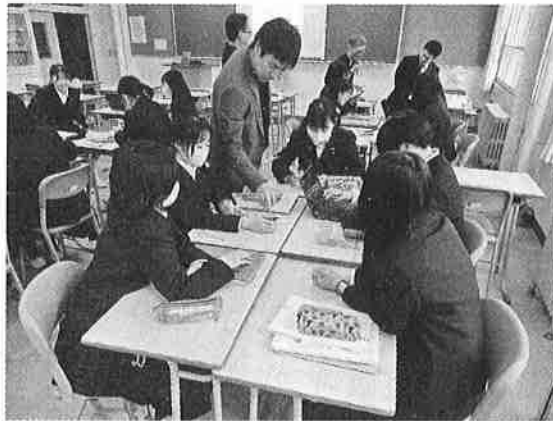


帯広三条高 帯広市や事業者と 交通すごろく改良へ議論 車両と公共交通機関比較も

【帯広発】帯広三条高校（合浦英則校長）は3年生選択科目「自己表現」において、帯広市および事業者



の協力を得て、交通環境学習に取り組んだ。10月下旬、講師による指導のもと、環境負荷やまちづくりの観点から個人車両と公共交通機関を比較。また、交通手段や環境への影響を体感できるボードゲーム「おでかけ交通すごろく」の改

良に向けて生徒間で議論を重ねた。

市都市政策課は小学生を対象に交通環境に関する出前講座を実施している。市内の施設や特色等を盛り込んだ「おでかけ交通すごろく」も活用し、市内の公共交通機関への親しみを子どもたちに持ってもらえるよう工夫している。

すごろく内の移動手段は、歩き・バス・車の3種で、交通カードの使用に必要なエココイン、ポイントに応じたおでかけコインの枚数を競う。バス・車は排

気ガスの排出によってエココインの支払いが多くなるなど、交通と自然環境の関連性を学ぶことができる。

市都市政策課は「おでかけ交通すごろく」のリニューアルを構想する中、帯広三条高教職員との縁をきっかけに、高校生による改良を依頼した。高校生対象の出前講座は初めてで「公共交通機関の利用者増に向けた、一歩先の学び」を目指している。交通環境まちづくりセンター、道開発技術センターが協力。

10月下旬から11月にかけて、3年生「自己表現」の3時間を用いて授業を展開した。

初日の出前授業では、個人車両と公共交通機関に関して、環境や家計、健康、まちづくりなどにおける影響を比較。過度な自動車利用から公共交通等を適切に利用するなど、一人ひとりの移動が、社会的にも個人的にも望ましい方向へと変化を促す「モビリティ・マネジメント」の重要性を説いた。

2日目は生徒がグループに分かれ、「食」「観光」「アラルト」の3テーマに沿って、新たな「おでかけ交通すごろく」を試作し写真し、市内小学校をスタートおよびゴール地点とし、市内各所の施設やイベント等を盛り込んだ。生徒たちはスマートフォンで市内の地図を確認しながら、すごろくのルートを設定。徒歩のみ移動が可能

な河川敷をマスマに設けたり、焼肉店のあとは徒歩および車の移動に制限したりするなど、交通カードの特性を利用したゲーム性の高い提案を示した。

道開発技術センター上席研究員の新森紀子氏は「大人だけで考えるよりはるかに面白く、高校生の発想の柔軟性を実感した」と驚きながら活動を見守った。

授業最終日には生徒たちがプレゼンテーションを実施した。今後、提案内容をもとにすごろくを改良し、ボード版・ウェブ版の2種を製品化する予定。完成品は小学生対象のイベントや6年度以降の出前授業等で使用する。